

移り変わった生徒たち

都立定時制存続を⑥

夜間定時制は「苦

した。」

学生」とか「働ながら学ぶ」というイメージを持つている人が多いと思います。間違いではないけれど少し違います。東京の夜間定時制の生徒たちの変遷を見ればわかります。

▽「苦学生」 戦後しばらくは経済的理由で全日制に行けなかった生徒が働きながら学ぶ「苦学生」がたくさんいました。大学進学実績でも全日制に引けを取らない時代でした。

▽集団就職 高度経済成長期になると、夜間定時制は集団就職で東京に来た若者でいっぱいになります。私が夜間定時制に赴任した1971年は集団就職列車の最後の時期でした。都民は1/3割、あとは北海道から沖縄まで全国各地から来ていました。

▽全日制に入れなかった生徒たち 高校進学率が上昇する中、高校増設が追いつかず、全日制に入れない生徒が多数生み出されました。東京の夜間定時制は、地方出身の生徒に代わって、こうした生徒たちが入学してきました。

▽「非行」・暴走族 1980年頃から都内の中学校では「非行」が大きな問題になりました。彼らは全日制に入れないか、入ってもすぐ退学になって夜間定時制に came ました。私は1986年に2校目の定時制に転動しますが、その学校は暴走族が何グループもいました。

▽不登校の生徒たち 1990年中頃から小・中学校で不登校経験の生徒が増えます。当時は中学で不登校だと、都立全日制高校は合格できませんでした。わずか数年の間に不登校経験の生徒が半数以上になりました。最近では全日制にもたくさん入学していますが、夜間定時制に多いということとは変わっていません。

▽障害ある生徒や外国につながる生徒など多様性 2000年頃からは不登校経験者に加え、障害のある生徒、外国につながる生徒も増えてきます。高齢の生徒もときどき入学します。私が定年退職する頃、私より年上の生徒が数人いました。夜間定時制の生徒はますます多様になっていきます。



明かりのついた夜の校舎

このように夜間定時制は、その時代時代に全日制高校に入れなかった生徒、全日制になじめなかった生徒、全日制高校からはじかれた生徒たちの学び舎でした。そして、底流にはいつも「貧困」がありました。

(多賀哲弥・元都立定時制高校教員)